

(令和2年3月1日現在)

阿賀野市長選挙（4月19日執行）に向けた政策（素案）

○なぜ、私が市長選挙に立候補するのか？（決意表明）

1期4年の市長在任中、心血を注いで取り組んだ市立病院の公設民営化。新病院（あがの市民病院）はできたものの、市民が一番に望んでいる救急医療は不十分のまま。加えて病院の再編・統合による診療体制・機能縮小への不安。今、まさに地域医療に対する不安・不満・不信が増大し拡散。

新型コロナウイルスの感染拡大（パンデミック）。首都圏と2本の動脈（新幹線・高速道路）で繋がる新潟県。県都新潟市に隣接する阿賀野市。市の感染症対策（危機管理体制）は万全なのか？不安が募るばかり…

雌伏8年。畑仕事のかたわら、この町の行く末を案ずる。果たしてこのままで良いのか！

私にもう一度チャンスを与えてほしい！市民病院の救急告示復活…、やり残した大事な仕事が残っている！やるなら今だ！私ならできる！私しかできない！

ラストチャンス！阿賀野市再生請負人 天野 市栄

争点

(現市政との対立軸)

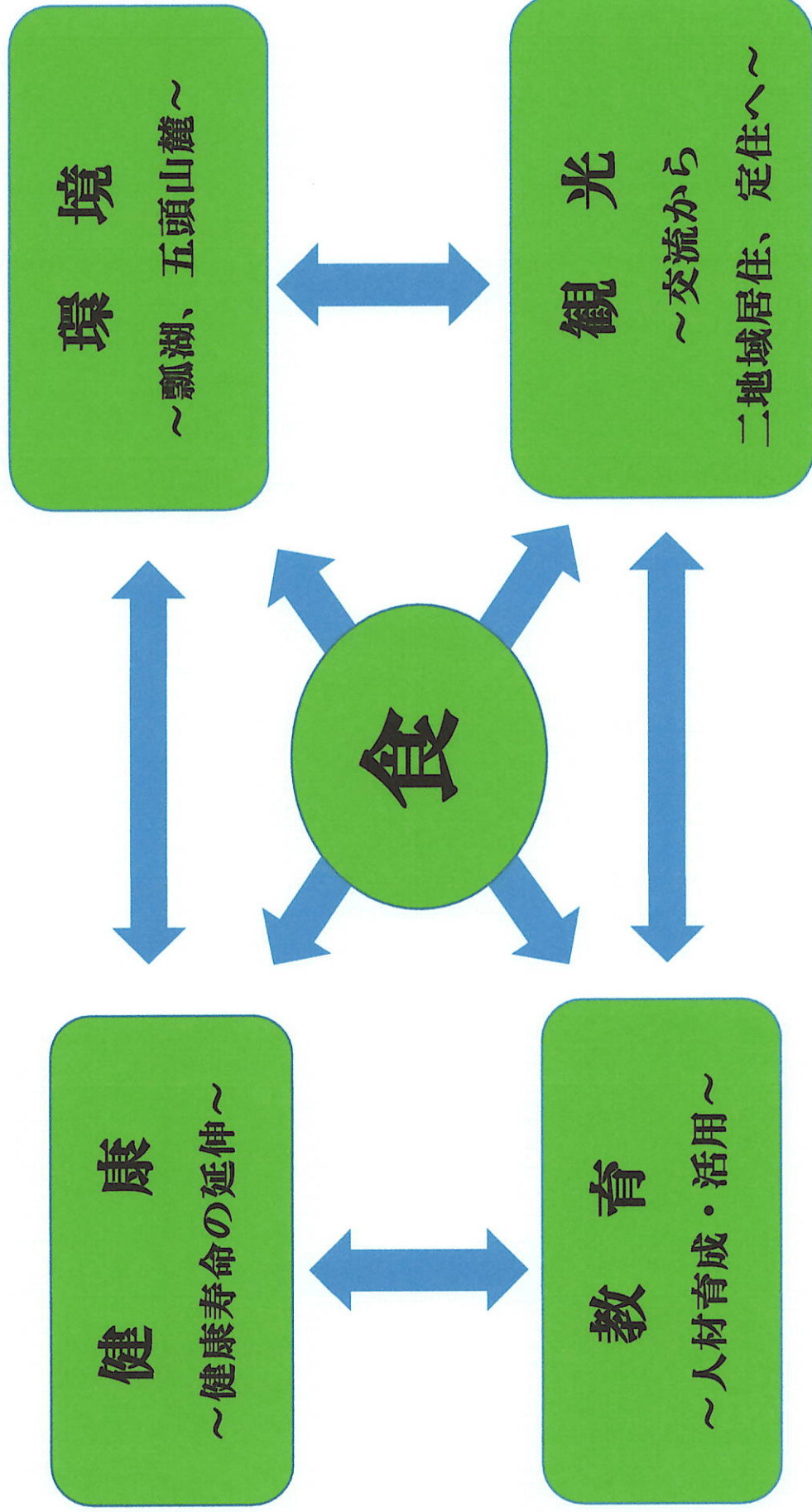
- ハード（建設）中心のまちづくりか、
ソフト・ハート（運営・協働）中心のまちづくりか
- 供給（サプライ）優先（市役所・業者目線）か、
需要（デマンド）優先（市民・利用者目線）か
- 短期志向のまちづくりか、
長期展望に立ったまちづくりか
- 人材軽視・使い捨ての市役所組織か、
人材重視・活用の市役所組織か

阿賀野市再生のキーワードは

四つ葉のクローバー

4 K

(健康×環境×教育×観光) + 1 S (食)



コンパクト&スマートシティー構想

※巻末にイメージ図あり。

～少子高齢化・人口減少社会に合わせたまちづくり（コンパクトシティー）、自然エネルギーを活用したまちづくり（スマートシティー）を提案します！～

コンパクトシティー～少子高齢化・人口減少社会に合わせたまちづくり～

○均衡のとれたまちづくり～対立を超えて調和へ

- ・市街地・中心部（水原地区、安田地区）に公共施設、公的施設、商業施設（店舗、スーパー）など、日常生活に不可欠な都市的機能を集約
- ・郊外・周辺部（笹神地区・京ヶ瀬地区）は生産拠点（農業・工業）や交流の場（観光）として整備
- ・交流人口の拡大を視野に入れた、ＪＲ水原駅を經由した公共交通網の再編・整備、シャトルバス（五頭温泉郷行き）の運行

○高齢者に優しいまちづくり

～歩いて（自転車に乗って）買い物に行けるまち、歩いて（自転車に乗って）医者・病院通いができるまち、介

護サービスが充実したまちづくり～

- ・市街地に高齢者向け公設・民設の賃貸住宅（アパート）を整備し、郊外に住む高齢者を市街地に誘導。
- ・店舗のない地域（郊外）に住む高齢者の買い物可能なため、市内食料品店による移動店舗を支援。
- ・あがの市民病院の常勤医師を増やして、救急告示指定病院（2次救急）を早期に復活
- ・特別養護老人ホームの入所基準（要介護3以上）から外れる軽度の要介護・要支援の高齢者が自宅や住み慣れた地域での介護サービスを受けられるようするため、在宅介護サービス・デイサービス・ショートステイサービスを提供する事業者への支援

○障がい者、一人親世帯など社会的弱者に優しいまちづくり

～障がいを持っていても、普通に暮らしていただける町を実現～

- ・障がい者や一人親世帯・貧困世帯など、社会的弱者向けに公設の賃貸住宅（アパート）の整備。
また、民間住宅で生活する世帯に対する家賃補助。

- ・障がい者の就業の場の確保支援（市役所職員など）
- ・公共空間（歩道、公共・公的施設）のバリアフリー化

○子育て世帯に頼りなるまちづくり

～人口減少をストップさせるため、子育て世代の定着と市外からの流入に向けた支援策を強化、

自身が子育て世帯だからこそ見える・分かる子育ての悩みや不安・課題～

- ・空き家を生きて世帯向け住宅（賃貸・分譲）に転換するためのシステムを構築
- ・子育て世帯に対する家賃補助
- ・低所得世帯の子弟の学習環境を改善

○地域経済・産業の活性化～商店街はまちの顔！～

- ・阿賀野バイパス（水原区間）の全線開通を視野に入れた商店街の活性化・賑わい空間の創出、電線の地中化
- ・農商工業者の事業承継（後継者対策）に向けた支援、雇用創出につながる企業誘致（製造業など）、起業化支援

- ・子弟が家業を継ぐ、第三者（意欲ある若者）に事業を引き継いでもらおうなど、事業承継に必要な資金（技能・国家資格の取得費用など）を助成
- ・事業承継者養成塾（仮称：温故ビジネス塾）を設置し、市内外の若手経営者などを講師として招聘し、

後継者を対象にした講座を開設

- ・県営東部産業団地への企業誘致（雇用吸収力のある製造業など）
- ・地域資源（人材、素材、技術）を活用した若者の起業化支援
- ・農業（1次産業）の6次産業化 《生産(1次)×加工(2次)×販売(3次)》
- ・建設業（2次産業）の6次産業化 《建設(2次)×運営(3次)》

○選択と集中による公共施設の整備・適正配置

～「ない」から造るのではなく「必要」だから作る。「造って終わる」でなく「造ってから始まる」～

- ・負債ではなく資産として将来世代（子どもたち）に引き継ぐための公共施設の整備、合併前の旧4か町村時代に建てられた類似公共施設を再編整備（統廃合）
- ・閉校になった小学校（赤坂・山手・大和・寺社・前山）の校舎を内外の交流拠点として整備

～芸術・文化活動、体験活動を通じた地域住民と都市住民との交流

・「うららの森トマトハウス」の早期民営化、「道の駅」の公設民営化の推進

スマートシティー～自然エネルギーを活用したまちづくり

○エネルギー効率の高い町（スマートシティー）づくり

・エネルギーを節約する・創る・ためるなど、省エネ・創エネ・蓄エネ設備を備えた住宅建設

（ゼロ・エミッションハウス）を支援

・木質バイオマスなど「阿賀野市バイオマスタウン構想～資源循環型社会の構築～」(平成22年2月策定)の

早期実現

人口減対策

～キーワードは、住まい・子育て・仕事～

○定住人口の維持…住んで良かった！

～子育て世帯を逃がさない、子育て世帯を呼び込む⇒職（就業の場）の提供と住まい（住宅）取得への支援

○交流から二地域居住・定住へ（I/Jターン）…来てよかった！また来たい！⇒住んでみたい！

～活躍・活動の場・就業の場と住まい（住宅）の提供

○ふるさとに帰りたい！（Uターン）

～就業の場を提供

市役所組織の強化・活性化

～危機管理に強い組織体制の確立～

- 平時と非常時（緊急時）のリーダーシップスタイル…平時はボトムアップ、非常時にはトップダウン
- 市民に分かり易い組織編制…部制を廃止し副市長を選任
- 真の「ワンストップサービス」の提供…市役所1階に市民相談室の設置
- モラル（規範意識）とモラール（士気・意欲）を兼ね備えた職員像の確立
- 職場風土の改善（風通しの良い職場づくり）
- 役付き職員（課長補佐以上）への女性登用率の引き上げ

「この地域には旧態依然とした悪弊が風土病のように根付いています。この悪弊を断ち切らなければ、田沼市（阿賀野市）の未来は切り開けないと考えています。いつの時代も、未来を開拓するのは子供たちです。私は、田沼市（阿賀野市）を子供たちが夢や希望を抱けるような町にしたいと思っています」

※小説「廃屋の町」は、「地域政党 日本新生」のホームページ (<http://www.nipponshinsei.jp/>) に掲載されたブログ<2017.4.27～2018.1.14>をもとに作品化されました。

橋 左京 作 小説「廃屋の町」より

厳冬の剣岳「野上、俺に代わって生きてくれ！」
市長選挙間際に発覚した
市立病院建設工事の官製談合疑惑
リークした市職員を肅清「死人に口無しだよ」

真実は、
内側、裏側、
後ろ側にある！
元市長が明かす
闇に隠れた
不都合な真実！

コンパクト＆スマートシティ構想

(20××年 近未来の阿賀野市)

郊外「農・食(職)・住」



市街地「コンパクトシティ」



郊外「生産・遊び」



植物工場

発電所

